

大学生の「はい」「ええ」の使い分けに関する意識調査 —漫画を使用したアンケートを通して—

金山 泰子・二宮 理佳

[キーワード]

「ええ」の機能・使い分け、応答表現、漫画を使用したアンケート、意見・感情、役割語

1. はじめに

応答表現「ええ」は「はい」とともに日本語教育において初級の早い段階から紹介される表現である。教科書では「はい」よりややゆだねた肯定表現という紹介のされ方をしているが、「はい」との違いについてはほとんど言及されていない(二宮・金山, 2008)⁽¹⁾。

北川(1973)、日向(1980)は「はい」には「認知」、「ええ」には「同意」の機能があるとする。この先行研究を踏まえ、「ええ」の機能を「参加・強調」とする研究もあり(Mcglain, 1997)、「ええ」には肯定以外の機能も見出されている。高橋(1999)は、英語との比較を通して、「はい」は話し相手の視点に配慮して用いられる「外心的」な表現であるのに対し、「ええ」は「内心的」であると考察する⁽²⁾。富樫(2002)は、「はい」の機能を「提示された情報に対し、それに関連した半活性化情報が多数呼び出されたことを示す」と定義している。石田(2005)は、ニュージーランド人日本語学習者の相づち「ええ」に関する知識を調べ、「会話の改まり度」や「社会的距離」の解釈に誤解が見られると報告した。

これらの先行研究を踏まえ、筆者らは「ええ」の機能に着目してアンケート、インタビュー、教科書分析、漫画、テレビ番組、文学作品など様々な媒体を変え、調査研究を試みてきた(二宮・金山, 2006 他)。その中の一つに20代から50代の母語話者28名を対象に漫画を使用した意識調査がある(金山・二宮, 2008)。今回は、このアンケート調査をもとに被験者の年齢層を10代、20代に設定し、意識調査を実施した。以下では筆者らのこれまでの研究の概要をまとめ、本調査の目的を述べる。

2. 研究背景

本節では、本研究の基盤となった筆者らのこれまでの調査概要を紹介する。

2.1 これまでの調査

二宮・金山(2006)では「はい」のみ使用可能な文例、「はい」「ええ」が共に可能な文例について分析した。

続いて行ったアンケート調査(金山・二宮, 2007)では、「はい」「ええ」に関する認知・解釈、使用状況を比較した結果、「ええ」にはかなりの幅があり、個々の意識によってその使い方・捉え方が異なるということ、その幅広さは、何を基準に「ええ」と「はい」の使い分けをしているかという点に関係していることが見出された。つまり人によ

て、または状況によって、待遇や丁寧さや改まり度に意識を置くか、相手との関係を意識するか、話者の気持ちの表明を重視するか等々が異なるため、使い方・受け取り方に幅が出てくるのではないかと考察した。

さらに漫画を使用したアンケートを実施・分析した結果（金山・二宮，2009）、「はい」「ええ」の使い分けの要因を「話者の気持ち」とした回答が多く見られた。特に「ええ」の選択理由には、「話者の気持ち」、「話者のイメージ」、「『ええ』が持つイメージ」という回答が多かった。また被験者のコメントから先行研究では説明しきれない「ええ」の機能が見えてきた。筆者らはその様相を「yes（肯定）+ α 」と命名した。「yes（肯定）+ α 」とは、従来の定義による肯定・同意機能にとどまらず、他の意見・感情を添加する機能（ α の部分）である。

二宮・金山（2013）では、この「ええ」の持つ「yes + α 」という点に着目し、文学作品の用例から考察を試みた結果、「ええ」の後に「まあ」「あの」などの表現を伴って躊躇・迷い・ごまかしなどを表す機能、逆接系接続詞「でも」「けれども」などを伴って断り・反対意見などを表明する機能が浮かび上がってきた。さらに後続文を伴わなくとも、「ええ」という表現そのものに発話者の感情・意見・主張が込められるのではないかという示唆も得られた。

金山・二宮（2018）では、「ええ」は役割語としての機能を有しているのではないかと考察した。金水（2003）は、役割語について以下のように定義する。

ある特定の言づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができる時、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができる時、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ（p.205）。

女性発話による「ええ」の会話例が、女性語とされる終助詞「わ」「よ／のよ」「の」等の女性語を文末に多く伴うことが見出されたことから、「ええ」もまた女性性を表象する役割語としての機能を有しているのではないかという考察に至った。

金山・二宮（2019）では、それまでの研究結果を踏まえ、今後の研究課題を整理した。その一つに現代における応答詞「ええ」の使用状況、および今後の変化の方向性を捉えるという課題を挙げた。本調査では、この研究課題への足がかりを見出すために2008年に実施した漫画を使用した意識調査と同様の調査を実施した。

以下に本調査の目的を述べる。

2008年に行った漫画を意識調査（金山・二宮，2009）と今回の調査を比較することにより、10年の隔たりを経て、応答詞「ええ」に対する認識・使用状況がどのように変化しているかを観察する。2008年に実施した際の被験者は10代はおらず、20代から50代までの28名であった。今回の調査では被験者を10代と20代の大学生19名に限定した。若い世代を調査対象に絞ることにより、今後の「ええ」の変化の方向性についても何らかの示唆が得られることも期待している。分析の視点としては、特に筆者ら

がこれまでの調査研究から得た以下の示唆に着目し考察する。

- ①「ええ」には「(肯定・同意以外の) 意見・感情が添加される部分」があるのではないか
- ②「ええ」には「役割語的側面」があるのではないか

以下に本調査のもとになった 2008 年の調査についてまとめる。

金山・二宮 (2009) では、2008 年に母語話者を対象に漫画を使用したアンケートを実施し、「はい」「ええ」の機能・効果、使い分けの判断の基準・意識の違いについて調査を行った。使用した漫画（「エースをねらえ」、「ブラックジャック」、「サザエさん」）は比較的認知度が高く、人物のキャラクター、絵柄や人間関係、コンテクストがシンプルでわかりやすいため、これらの要因が使い分けの判断にどう影響を及ぼしているかについて分析がしやすいと考えた。調査の結果、使い分けの要因を「話者の気持ち」とした回答が多く見られ、特に「ええ」の選択理由には、「話者の気持ち」、「話者のイメージ」、「『ええ』が持つイメージ」という回答が多かった。「ええ」は「Yes (肯定) + α 」で、 α の部分が人によって状況によって異なると分析した。

この 2008 年の調査に先立ち 2007 年に実施した調査では、「ええ」の機能や効果に予想以上の幅があり、個々の認識にも大きな違いがあること、その幅広さは選択基準を何に置くのかということから生じるのだらうと指摘した。2008 年のアンケート調査では、この指摘は適当だったことが明らかになったと共に、特に「気持ち」が重要な決定要因であることが浮き彫りになった。

また 2007 年の調査同様 2008 年に実施した調査からも、「ええ」は「はい」より気持ちをのせるという特徴が認められた。「はい」も気持ちを表すが、それは賛同・肯定を強めるものであり、「ええ」のように複雑で多様な感情をのせるようなコメントはあまり見られなかった。一方、「ええ」は「Yes (肯定) + α 」の α の部分に多種多様な気持ちが含まれるコメントが多かった。

3. 調査の概要

3.1 調査対象者・調査期間

対象者は都内の大学生（母語話者 19 名、男子 11 名、女子 8 名）で、調査期間は 2019 年 7 月の 1 か月間である。調査の趣旨・目的、個人情報の取り扱いについて口頭、ならびに書面で説明し、同意を得た回答を使用した。

3.2 調査の方法

本調査は、2008 年と同じアンケート（金山・二宮, 2009）を実施した。3 種類の漫画「エースをねらえ」、「ブラックジャック」、「サザエさん」の中で「はい」「ええ」が使用されている部分を数箇所空白にし、被験者にどちらが自然だと思うか直感や印象で回答してもらった。空白にした部分は一箇所を除き（電話を受けた場面）、すべて「ええ」が使われているが、「はい」も可能な部分もある。またなぜ「はい」または「ええ」を選んだか（選ばなかったか）についてコメントを付記してもらった。アンケートは資料

1を参照されたい。紙幅の都合で全編を掲載することができないため、使用した漫画の場面について説明を加えた。

次に被験者のコメントを筆者らが2006年に行ったアンケートの分類項目にしたがって整理した。この2006年の調査では、「ええ」をどのような要因によって使い分けているかについて、「相手との関係」、「場面・場所・状況」、「話題」、「気持ち」、「性別」という項目を設け、○をつけるよう求めた。分析の際にこれらの項目に分類しきれなかったコメントについては「イメージ」、「その他」という項目を新たに設けた(金山・二宮, 2007)。2008年に実施した漫画調査でも、この項目にしたがって回答者のコメントを分類・整理した(金山・二宮, 2009)。例えば、「女性っばいから」というコメントは「性別」、「先輩後輩である二人の人間関係から」というコメントは「相手との関係」に分類した。なお、「相手との関係」と「場面・場所・状況」の間の厳密な線引きは難しいので、この2つの項目においては重なりがあるという点は常に留意した。しかしながら、分析の便宜上、例えば、「刑事は偉そう」というコメントは「相手との関係」に分類し、「取り調べ」というコメントは「場面・場所・状況」に分類した。本調査でもこれらの分類基準に従うと共に、その他分類に迷うコメントは協議の上、以下のように分類した。なお1名の被験者のコメントの中に2種類の項目が出てくる場合もあるが、これはそれぞれの項目に分類した。

分類の基準

- 「女だから」「男だから」など性別に特化しているもの ⇒ 「性別」に分類
- 「お嬢様」「品のいい女性」「スポーツ少女」のように、性別だけでなくイメージを喚起するような表現で書かれている回答 ⇒ 「イメージ」に分類
- 「YES」(肯定)の意味として捉えた記述回答 ⇒ 「その他」に分類
- 「何となく」など理由が無い回答 ⇒ 除外
- 「はい」「ええ」両方に○があって、「どちらでもいい」⇒ 除外
- 「はい」「ええ」両方に○があって、理由がある ⇒ それぞれの理由を両方に分類
- 「場面・場所・状況」と「話題」の厳密な線引きは難しいが、例えば「日常会話」「世間話」⇒ 「話題」として分類
- 「イメージ」か「関係」で、分類を迷った例(「亭主関白～」「家父長制度～」「気心の知れた夫」「夫を敬う」) ⇒ 「イメージ」に分類することで統一
- 「ええ」の後には次に伝える気がする、など後続文に注目したコメント ⇒ 「その他」に分類

4. 調査結果と分析

まず2008年の調査結果と2019年の調査結果を比較し、全体的な傾向、変化を観察する。次に被験者のコメントを項目別に示し、特に「気持ち」「イメージ」に関するコメントの傾向を分析する。さらに、ケーススタディとして2019年の調査の被験者19名中3名の回答を示し、個々の回答の特徴を観察する。

4.1 2008 年と 2019 年の調査結果の比較

表 1 は、2008 年と 2019 年の被験者を年代別に表したものである。2008 年の被験者は 20 代から 50 代の 28 名（うち男性 9 名、女性 19 名）、2019 年の被験者は 10 代、20 代の大学生 19 名（うち男性 11 名、女性 8 名）である。

表 1 2008 年／2019 年調査対象者の年代別内訳

| 年代 | 10 代 | 20 代 | 30 代 | 40 代 | 50 代 | 合計 |
|----------|-----------|------------|------------|-----------|----------|-------|
| 2008 年調査 | 0 | 8 (28.6%) | 11 (39.3%) | 8 (28.6%) | 1 (3.65) | 28 名 |
| 2019 年調査 | 8 (42.1%) | 10 (52.6%) | 0 | 0 | 0 | 19 名* |

*無記名の被験者が 1 名いたが、10 代か 20 代のいずれかに属する。

表 2-1、2-2 は、2008 年と 2019 年それぞれの調査において、「はい」または「ええ」を選択した理由を項目別に分類し、数で示したものである。さらに表 2-3 は、表 2-1 と 2-2 から、「ええ」の選択理由として多かった項目上位 4 位までを取り出して示したものである。

表 2-1 2008 年の調査における「はい」「ええ」を選択した理由：項目別コメント数

| | 関係 | 場面・場所・状況 | 話題 | 気持ち | 性別 | イメージ | その他 | 総数 |
|----|---------------|---------------|-------------|---------------|-------------|---------------|-------------|-----|
| はい | 18 (18.9%) | 29 (30.5%) | 0 (0%) | 37 (38.9%) | 0 (0%) | 6 (6.3%) | 5 (5.3%) | 95 |
| ええ | 23 (17.7%) | 10 (0.8%) | 3 (2.3%) | 63 (48.5%) | 4 (3.1%) | 19 (14.6%) | 8 (6.2%) | 130 |

表 2-2 2019 年の調査における「はい」「ええ」を選択した理由：項目別コメント数

| | 関係 | 場面・場所・状況 | 話題 | 気持ち | 性別 | イメージ | その他 | 総数 |
|----|---------------|---------------|-------------|---------------|-------------|-------------|----------------|----|
| はい | 14 (18.2%) | 22 (28.6%) | 0 (0%) | 21 (27.3%) | 1 (1.3%) | 5 (6.5%) | 14 (18.12%) | 77 |
| ええ | 12 (14.3%) | 1 (1.2%) | 1 (1.2%) | 28 (33.3%) | 6 (7.1%) | 25 (30%) | 11 (13.1%) | 84 |

表 2-3 2008 年／2019 年調査における「ええ」の選択理由：項目別コメント数上位比較

| | 2008 | | 2019 | |
|---|----------|------------|------|------------|
| 1 | 気持ち | 63 (48.5%) | 気持ち | 28 (33.3%) |
| 2 | 関係 | 23 (17.7%) | イメージ | 25 (30%) |
| 3 | イメージ | 19 (14.6%) | 関係 | 12 (14.3%) |
| 4 | 場面・場所・状況 | 10 (7.7%) | 性別 | 6 (7.1%) |

表 2-1、2-2 の「イメージ」の項目で、「はい」「ええ」との違いについて着目する。2008 年の調査では、「はい」の 6.3% に対し「ええ」が 14.6%、2019 年の調査では、「は

い」の6.5%に対し「ええ」が30%となっており、いずれも「ええ」は「はい」よりも「イメージ」を伴う表現であるという意識が持たれているようである。次に「気持ち」の項目で、「はい」「ええ」の違いについて見る。2008年の調査では「はい」が38.9%、「ええ」が48.5%となっている。2019年の調査では「はい」が27.3%、「ええ」が33.3%となっており、いずれも「ええ」は「はい」よりも「気持ち」を伴う表現であるという意識が持たれているようである。

また表2-3を見ると、2008年の調査では、「ええ」を選んだ理由として「気持ち」が最も多く、48.5%と全体の半数近くを示している。一方、2019年の調査では「気持ち」が1位で33.3%、2位が「イメージ」30%となっている。「イメージ」に着目してみると、2008年の14.6%に対し、2019年では30%となっており、「ええ」の選択理由として「イメージ」を回答した被験者が倍以上に増えたということがわかる。

4.2 2019年調査における被験者別の回答

前節では、被験者の回答総数について2008年と2019年の変化に着目して観察した。本節では、2019年の調査における被験者19名の回答状況を個別に提示する。表3は、被験者の回答について「はい」「ええ」それぞれのコメントを分類し数で示したものである。

表3 2019年調査における「ええ」項目別のコメント

| 対象者 | | 関係 | 場面・場 所・状況 | 話題 | 気持ち | 性別 | イメージ | その他 |
|----------|----|----|--------------|----|-----|----|------|-----|
| A (女) | はい | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| | ええ | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| B (男) | はい | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| C (女) | はい | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| | ええ | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| D (女) | はい | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 3 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| E (女) | はい | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | ええ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| F (男) | はい | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 |
| G (男) | はい | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| H (男) | はい | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| I (男) | はい | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | ええ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| J (男) | はい | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 |
| K (男) | はい | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| L (男) | はい | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| M (女) | はい | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| N (男) | はい | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| O (女) | はい | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 2 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| P (男) | はい | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| Q (男) | はい | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| R (女) | はい | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 3 |
| S (女) | はい | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| | ええ | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 |

4.3 2019年調査における被験者コメントのキーワード化

前節では、2019年の調査における被験者の回答を個別に集計して示した。本節では、被験者のコメントのうち「気持ち」「イメージ」に関するものをキーワード化して示す。キーワードはオリジナルのコメントから抽出したものである。紙幅に限りがあるため、オリジナルのコメントについては、添付資料2を参照されたい。表中、「×3」のように記したものは、同種のコメントが3つあったということである。

表4 「ええ」「はい」の選択理由のキーワード化

| | ええ | はい |
|------|--|---|
| 気持ち | 同意・同調×7 軽い 早く返答したい もちろん 気品を高く見せる 動揺 悲しい 納得 とまどい×2 「シュンっ」(ママ) 落胆 余韻が残る 嬉び(ママ) 感嘆 意味を含ませる | 賛同 同意 強い意志×3 声をはっている もちろん 覚悟を決めた 気持ちが高ぶる ビックリマークがついている おどろいた 気持ちがかたまる 決心 しっかり |
| イメージ | 高貴×2 お嬢様 セレブなお嬢様 上品×7 貴族な感じ おばさん 古っばい 昔の奥様 おちついた・冷静 おしとやか 主張 庶民的な一般女性 気どった 一人称が「あたくし」 「なんですか」「いいんです」と合う | スポーツ少女 亭主閑白 時代的 |

全体として、「イメージ」の項目は、「はい」よりも「ええ」の方がコメント数が多い。前述したように、「イメージ」については、「はい」が6.5%であったのに対し、「ええ」は30%となっており、「ええ」が約4倍になっている。また、数の多さだけでなく、キーとなる言葉も多様である。「ええ」は、お嬢様、貴族、セレブ、気取った、高貴、上品といったステータスの高さを表すイメージが持たれており、「あたくし」「なんですか」「いいんです」等の表現と共起するというイメージも持たれているようだ。一方、「はい」に「スポーツ少女」というイメージがあるという回答があり、これは「ええ」のイメージと対象的である。

また、今回の調査では「昔の奥さま」「時代的な」「古っばい」といったコメントが見られた。これは、被験者が10代から20代前半の大学生という若い世代のみであったということが関係しているかもしれない。

「気持ち」の項目では、「賛同」「同意」「同調」のように、「はい」「ええ」に共通して見られるキーワードもあった。違いに着目してみると、「はい」は「強い」「覚悟」「ビックリマーク」「決心」「しっかり」「かたまる」「高まる」といった強い気持ちの表れとしてとらえられているようである。一方、「ええ」には、「感嘆」「もちろん」「嬉び(ママ)」「納得」といった強い気持の表れを示すキーワードもあるが、「動揺」「とまどい」「落胆」「悲しい」といった不安定さや弱さを表すキーワードが見られる。さらに、「余韻」「意味を含ませる」などから、含みを持った表現としてとらえられている被験者がいることがうかがえる。

4.4 被験者 3 名のケーススタディー

前節では全体の傾向を観察したが、本節では個々の被験者が「はい」「ええ」の使い分けをどのように意識しているのかを詳しく観察するために、被験者 19 名のうち 3 名の被験者 (J、L、M) の回答を観察する。この 3 名は、「はい」「ええ」の使い分けが明確で、コメントが具体的であると共に、筆者らがこれまでの調査で注目してきた「気持ち」「イメージ」に着目しているからである。

① 被験者 J：20 代・学生・男性

| | 場面 | 回答 | 理由 |
|----------|----|----|---|
| エースをねらえ | 1 | はい | 電話の応答にええは違和感を感じる。 |
| | 2 | ええ | 物事を同意するときは、ええの方がしっくり来る。 |
| | 3 | ええ | どちらでも良かったが、キャラクターの顔やしゃべり方に上品さを感じたのでええが好まれる。 |
| ブラックジャック | 1 | はい | ええには落ち着いたイメージがあるから |
| | 2 | ええ | 動揺した Yes |
| | 3 | はい | 覚悟を決めた Yes |
| サザエさん | 1 | はい | ビックリマークがあとについているから |
| | 2 | ええ | 悲しみがこめられている。ええには悲しい、落ちついた、未確定、などのイメージがあるから |

被験者 J は気持ちを基準として「はい」「ええ」をとらえているようだ。特に「ええ」を「動揺」、「はい」を「覚悟」というように、二つの表現を対称的にとらえている。「ビックリマークがついているから」という理由で「はい」を選んだのに対し、「ええ」については「悲しい」「落ち着いた」「未確定」というイメージがあると説明しており、ここでも「はい」と「ええ」を対称的にとらえていることがうかがえる。また A は「エースをねらえ」というマンガを全く知らないということだが、漫画の絵ならびに話し方から「上品」と言うイメージを持ち「ええ」を選択している。つまり「ええ」に「上品」というイメージを持っているということだろう。

② 被験者 L：19 歳・学生・男性

| | 場面 | 回答 | 理由 |
|----------|----|----|--|
| エースをねらえ | 1 | はい | うれしいことを言われて気持ちが高ぶって同意してるから |
| | 2 | ええ | 言われたことに納得してその後に主張を述べてそうだから納得の「ええ」 |
| | 3 | ええ | これも納得ないしは同意しての「ええ」 「ええ」のあとは冷静な主張が来る |
| ブラックジャック | 1 | ええ | やはり後ろに主張が来る |
| | 2 | ええ | とまどいの「ええ」に見えて |
| | 3 | はい | 気持ちがかたまっの「はい」 |

| | | | |
|-------|---|----|--------------|
| サザエさん | 1 | はい | 気持ちが高ぶっている |
| | 2 | ええ | 「シュンっ」としてのええ |

被験者Lもまた「気持ち」を基準として「はい」「ええ」をとらえているようだ。「はい」は「気持ちが高まる」「気持ちが固まる」表現としてとらえているのに対し、「ええ」は「納得」「戸惑い」「シュンっ」という気持ちの表れとしてとらえている。また「ええ」の後に「主張が来る」「冷静な主張が来る」とも回答しており、「ええ」の生起する状況として後件にも注目していることが見てとれる。

③ 被験者 M：20代・学生・女性

| | 場面 | 回答 | 理由 |
|----------|----|----|-----------------------------------|
| エースをねらえ | 1 | はい | 応答ではない。受けこたえ |
| | 2 | ええ | 余韻が後にのこるから |
| | 3 | はい | 年上？コーチへの受けこたえだから |
| ブラックジャック | 1 | はい | いいえとの対おう |
| | 2 | ええ | 言葉に嬉びを感じて返答している |
| | 3 | はい | はい！という決心 |
| サザエさん | 1 | ええ | 奥様（近所の）との会話だから |
| | 2 | ええ | はいというたんていさ（ママ）では終われない感情がある。落胆のきもち |

被験者Mもまた「気持ち」が基準となっているようだ。「ええ」については「余韻が残る」「はいというたんていさ（端的さ）では終われない感情がある」と述べており、「はい」との使い分けの基準の一つとして、「ええ」が含みのある表現であると意識していることが伺える。また「はい」は「決心」、「ええ」は「嬉び（ママ）」「落胆」というように、異なる感情の表明としてとらえているようである。年上には「はい」、近所の奥様との会話には「ええ」など「場面」「関係」なども判断基準に入れている。

5. まとめと考察

以上の調査結果について、2008年の金山・二宮の調査との比較をしつつ、「はい」「ええ」の使い分けに関する意識について、筆者らのこれまでの研究、および先行研究と関連づけて「ええ」についての再考察を試みる。

2008年と2019年の結果を比較すると、いずれも「ええ」のほうが「はい」よりも、「気持ち」「イメージ」を伴う表現として認識されていることがわかった。また、違いに注目すると、2008年の調査では、「ええ」を選んだ理由として「気持ち」が最も多く、48.5%と全体の半数近くを示している。一方、2019年の調査では「気持ち」が33.3%、次が「イメージ」で30%となっている。「イメージ」に着目してみると、2008年の14.6%に対し、2019年では30%となっている。「ええ」の選択理由として「イメージ」を回答した被験者が倍以上に増えたということがわかる。

また、本調査の3名の被験者ケーススタディーからは、個々が「はい」「ええ」を意識的に使い分けており、その使い分けに「気持ち・感情」が要因となっていることが観察できた。上述したように、「はい」「ええ」の選択理由で最も多かったのは「気持ち」であったが、ケーススタディーの結果から、個々がどのように「気持ち」という点から「はい」「ええ」を使い分けているか、その実態の一端がうかがえた。

次に、先行研究と関連付けて考察する。まず、「(肯定・同意以外の)意見・感情が添加される部分」(二宮・金山, 2013)についてである。筆者らのこれまでの調査では、先行研究ではカバーしきれない「ええ」の機能が被験者のコメントから得られた。その一つが「yes + α 」というものである。「yes + α 」とは、従来の定義による肯定・同意機能にとどまらず、他の意見・感情を添加する機能である。今回の調査でも、肯定・同意以外の感情が表れているコメントが見られた。たとえば、「動揺」「悲しい」「落胆」「戸惑い」「感嘆」「『はい』という端的さでは終らない感情」「その後に主張を述べてそうだから納得の『ええ』」「『ええ』の後は冷静な主張」「意味を含ませる発言」などである。筆者らは、「ええ」は明らかに「はい」とは異なる意味・機能を有しており、発話者の感情・意見・主張を含む表現であるのではないかと考察したが(金山・二宮, 2013)、今回の調査から、被験者もまた、「ええ」には感情・意見・主張を表明する機能があるという意識を持っていることがうかがえた。

次に、「役割語的側面」に関する点について述べる。金山・二宮(2018)では、「ええ」を選択する理由(要因)には、「話者の感情」だけではなく、女性性を象表する一種の「役割語」としての側面を有しているのではないかと考察した。本調査結果からは、被験者らが「ええ」に役割語機能を見出しているのではないかということが示唆されるようなコメントが散見された。たとえば、「セレブなお嬢様」「高貴な女性」などのコメントである。「あたくし」「なんですの」「いいんですの」と「ええ」の共起を意識している回答が見られたことも、女性をイメージする役割語としての意識が示唆されていると思われる。

6. 今後の課題

本調査では、10代と20代の母語話者が「ええ」をどのように認識し使用しているかについて調査した。被験者数も限られており、さらなる調査・考察が必要であるが、従来の先行研究では指摘されていなかった「ええ」の機能に関し、筆者らのこれまでの考察結果を裏付ける結果が得られた。今後、データ数を増やすとともに、以下の点に着目して調査を進めていきたい。

本調査では2008年の意識調査では出なかった、「昔の奥さま」「時代的な」「古っばい」といったコメントが見られた。これは、被験者が10代から20代前半の大学生という若い世代のみであったということが関係しているかもしれないと推測されるがこの点の分析を進めることで「ええ」の今後の様相(機能・選択基準・使用状況など)を推測することも可能になるかもしれないと考える。また、男女差・地域差からの影響も視野に入れて研究を進めたいと考えている。

注

1. 二宮・金山 (2008) は、「ICUの日本語 vol.1～3」、「げんき I、II」、「Situational Functional Japanese vol.1～3」、「Japanese for Busy People vol.1～3」、「新日本語の基礎 I、II」、「Japanese for Everyone」に現れる「ええ」の用例、説明について調査した。
2. 高橋 (1999) は「外心的」「内心的」について以下のように説明する。「外心的」とは、社会の視点・観点からなされる言語表現、あるいは、少なくとも話者が話し相手や社会の視点・観点到配慮しておこなう言語表現のことである。一方「内心的」とは話者の視点あるいは話者の主観からなされるものである (p.4)。

参考文献

- 石田浩二 (2005) 「ニュージーランド人日本語学習者の相づち『ええ』についての知識—母語話者と学習者の解釈の比較—」『日本語教育研究』127号, 1-10. 現代日本語研究会編
- 金山泰子・二宮理佳 (2007) 「『はい』『ええ』の使い分けに関する意識調査」『ICU日本語教育研究』3, 3-31. 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 金山泰子・二宮理佳 (2009) 「『はい』『ええ』の使い分けに関する調査—漫画を使用したアンケートを通して—」『ICU日本語教育研究』5, 19-44. 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 北川千里 (1977) 「『はい』と『ええ』」『日本語教育』33号, 65-72. 日本語教育学会
- 金水敏 (2003) 『バーチャル日本語役割の謎』岩波書店
- 高橋潔 (1999) 「日本文化キー・ワード概念にからむ語用論」『社会言語化学』第1巻第2号 (pp.2-12)
- 富樫純一 (2002) 「『はい』と『うん』の関係をめぐって」定信利之編『「うん」と「そう」の言語学』(pp.127-157) ひつじ書房
- 二宮理佳・金山泰子 (2006) 「『ええ』の機能についての一考察—『はい』との比較を通して—」『ICU日本語教育研究』2, 51-63. 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 二宮理佳・金山泰子 (2008) 「初級教科書に現われる『ええ』についての調査報告—初級における応答表現指導についての一考察—」『ICU日本語教育研究』4, 39-57. 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 日向茂男 (1979) 「談話における『はい』と『ええ』の機能について」『国立国語研究所報告』65号, 215-229. 国立国語研究所
- McGloin, Naomi H. (1991) Hai and Ee : An Interactional Analysis. *Japanese/Korean Linguistics*. Vol.7, 105-120

資料 1 (調査に使用した 3 種の漫画について)

- ① 「エースをねらえ」: 1973 年から 1975 年、および 1978 年から 1980 年まで少女漫画雑誌『マーガレット』に連載された。テニスに打ち込む高校生ヒロインひろみの青春を描いたスポーツ漫画である。下線を施した部分がアンケートで空欄にした箇所である。
- ・空欄 1 : お蝶夫人が父から電話を受けて応える場面である。お蝶夫人はテニス部のマドンナ的存在であり才色兼備の女子高校生である。父は日本庭球会理事を務めている。
お蝶夫人: 「はい、あらおとうさま」
 - ・空欄 2 : お蝶夫人と父との会話
父: 「つぎは岡くんとだね」
お蝶夫人: 「そうです」
父: 「勝ち方が問題だね」
お蝶夫人: 「ええ、あたくしもそう思います」
 - ・空欄 3 : 漫画の主人公ひろみとテニス部の先輩藤堂との会話
練習の休憩中にすれ違い、気まずそうな雰囲気になった後に交わした会話である。
藤堂: 「あついね」
ひろみ: 「ええ ほんとに」
- ② 「ブラックジャック」: 1973 年から 1978 年まで『週刊少年チャンピオン』に連載され、1979 年から 1983 年にかけて不定期連載された、無免許の天才外科医ブラックジャックを主人公とした作品である。本調査で使用したのは「きみのミスだ!」という作品の一部である。
- ・空欄 1 : 医療ミスの責任を押し付けられた看護師の女性が、裁判で証言する場面
看護師: 「ええ、注射したのはあたしです でも……ちがいます! あたしは いいえ……それはうそです!!」
 - ・空欄 2 : 無実の罪を負わされた病院に対して復讐をしたいはずだと言われた看護婦の返答
ブラックジャック: 「おまえさんはまだ復しゅうしたいだろ あの病院に」
看護師: 「ええ! ええ!」
- ③ 「サザエさん」: 1946 年から地方新聞に、1951 年から 1974 年まで『朝日新聞』(定期休載期間も含め) に連載されたサザエの嫁ぎ先磯野家の日常をコミカルに描いた作品である。
- ・空欄 1 : ヘチマに水をやっている近所の奥さんがサザエにそれは何か聞かれた後の場面
近所の奥さん: 「(ヘチマ水) そんなにいいんですの?」
サザエさん: 「ええ 私毎年つけてますのよ」
 - ・空欄 2 : サザエさんもヘチマ水を毎年つけていると知った後、育てていたヘチマに水をやらなくなった妻が、夫に声をかけられ浮かぬ表情で答える場面
夫: 「ヘチマやめたのか」
妻: 「ええ」

資料2 2019年調査における「ええ」項目別のコメント

(*一つの回答に対するコメントを「」で示した。)

| 理由の項目 | 「ええ」に関するコメント |
|----------|---|
| 相手との関係 | 「親しさをこめて」「相手と距離がある時は『ええ』を使う傾向がある」「親子という親しい間柄」「同じぐらいの立場」「相手と距離がある」「タメ語で話してるので」「親しくないとき」「親しい間柄」「親しい間柄」「親しい間柄」「身内と話している」 |
| 場面・場所・状況 | 「この会話の前に名を尋ねられたはず」「『ええ』は『～ね』『～だね』何か相手からの言葉があってから使用する気がしたから」「奥様（近所の）との会話だから」 |
| 話題 | 「日常会話」「世間話でかたくない感じの会話」 |
| 自分の気持ち | 「相手の意見に同意してるから」「同意」「言われたことに納得して／その後に主張を述べてそうだから納得の『ええ』」「同意を示すとき」「相手の意見に同意してる」「同意」「納得ないしは同意しての『ええ』。『ええ』の後は冷静な主張が来る」「同意」「動揺したYES」「相手に同意」「悲しい、落ち着いた、未確定」「『シュンっ』としてのええ」「はいという端的さでは終わらない感情がある。落胆の気持ち」「戸惑っている感じ」「『サザエさんが使っているからやめた』という意味を含ませる発言」「うしろに主張がある」「とまどいの『ええ』」「言葉に喜びを感じて返答している」「戸惑っている感じだから」「感嘆を含んだ『ええ』」「早く返答したいという気持ち」 |
| 性別 | 「女性が使いそう」「男女で言葉使いがはっきりしてそう」「女性であるため」「女性」「男女で言葉づかいがはっきりわかれてそう」「同じ女性に対して返答しているから」 |
| イメージ | 「品がよさそうなので」「セレブなお嬢様な雰囲気が感じられるので『ええ』のほうが適切だと思う。お父様という表現に繋がるのは『はい』よりも『ええ』」「高貴な女性が相手の意見に賛同するときは『ええ』を使用すると思ったから」「お嬢様」「言葉が古っぽいので、雰囲氣的に『ええ』の方が似合う」「どちらでもよいが『ええ』の方がこの上品なキャラクターに合っている」「品がいい」「上品」「一人称があたりから『ええ』の方がしっくりくる」「貴族な感じがあるから」「高貴」「品が良さそう」「上品」「上品な感じ」「おばさんが使うイメージ」「昔の奥様達」「話し方や性格」「気どったような話し方」「おじょう様風」「気品を高く見せるため（肌のケアもおこたってないですよ、みたいな）」「上品な感じ」「おばさんが使うイメージ」「昔の奥様」「話し方や性格」「いいんですか？という上品な言葉づかいには『ええ』のほうがしっくりくる」「どちらでもよかったがキャラクターの顔やししゃべり方に上品さを感じたので」「落ち着いたイメージ」 |
| その他 | 「余韻が後に残るから」「含みがあるから」「Yesの意味ではなく相づち」「大きい声で言いやすそう」「『つけてますのよ』と続くので」「相手の言葉に対する返事」 |

資料3 2019年調査における「はい」項目別のコメント

(*一つの回答に対するコメントを「」で示した。)

| | |
|----------|--|
| 理由の項目 | 「はい」に関するコメント |
| 相手との関係 | 「少し隔たりがある関係」「『ええ』は自分の目上の人に対しては使わない」「ですます調だから『はい』」「目上の人に対しての会話」「年上? コーチへの受け答えだから」「先生と呼ぶ相手に『ええ』と返すよりは『はい』のほうがしっくりくるから」 |
| 場面・場所・状況 | 「『ええ』は何か言われた時の返答に使うから、電話の際は返答ではなく自分の存在を伝えるために使用するから」「取り調べの緊迫感を表したい」「尋問のような状況下」「しっかりと返答する場面」「フォーマル」「プライベートではない」「証言のときに言い切らないと不利になるから」「電話の対応に「ええ」は違和感」 |
| 話題 | |
| 自分の気持ち | 「嬉しいことをいわれて気持ちが高ぶって同意している」「同調」「意志を感じるから」「賛同」「覚悟を決めた YES」「気持ちが高ぶっている」「強い意志」「気持ちが固まってる『はい』」「『はい』! という決心」「意思を固めた」「同意の『はい』」「意志が固いことから出た」「『はい』と強めて答える」 |
| 性別 | スポーツ少女という感じ |
| イメージ | 「庶民的な一般女性」「この時代の夫婦は男性に対してうやまう傾向があると思ったため『ええ』は使わないと思った」「時代的な感じで家父長制に則るなら『はい』の方が適切」「『亭主関白』という点から、よりていねいな『はい』が妥当」「気心の知れた夫に『ええ』は使いそうにないから」 |
| その他 | 「軽い返答だから、しっかりと『はい』言わなくてもいいのでは?」「声を張るので『はい』」「『いえ』と対になっている『はい』」「ビックリマークがあとについているから」「ええの後には何か次に伝えることがある気がするけど、『はい』はそれで完結させるような気がする」「『いいえ』との対応」 |

(金山泰子－国際基督教大学, 二宮理佳－中央大学)